

4.

国際研究ネットワーク

- 1) 国際的な共同研究・研究交流
- 2) INTPART および UTFORSK
プロジェクト
- 3) 国内外招聘研究者一覧

1) 国際的な共同研究・研究交流

■ジェンダー研究所所属の研究者が2023年度に研究交流または共同研究をした海外の研究者

海外研究者氏名	所属機関（職位）
黄長玲	国立台湾大学（教授）
楊婉瑩	台湾国立政治大学（教授）
Soo-hyun Kwon	韓国ジェンダー政治研究所（研究委員）
Jiso Yoon	韓国女性政策研究院国際協力センター（センター長）
Devin K. Joshi	Singapore Management University（准教授）
日下部京子	アジア工科大学院大学（AIT）（教授）
Jung Hwan Lee	ソウル大学（准教授）
Eun Jeong ChoE	韓国国家安保戦略研究院（研究員）
Ji Hyung Lee	淑明女子大学（教授）
Eun Kyung Lee	ソウル大学（准教授）
Celeste Arrington	George Washington University（准教授）
Kazue Harada	Miami University (Associate Professor)
Sunyoung Yang	The University of Arizona (Assistant Professor)
Andrea Gevurts Arai	University of Washington (Assistant Professor)
Chong Eun Ahn	Central Washington University (Associate Professor)
Lin Li	University of St. Thomas (Assistant Professor)
Belinda Qian He	University of Oklahoma (Assistant Professor)
鐘仁耀	華東師範大学（教授）
李晶	華東師範大学（副教授）
張繼元	華東師範大学（講師）
王橋	中国社会科学院（研究員）
Petrice R. Flowers	University of Hawai'i—Mānoa (Professor, Political Science)
Rachel Alsop	University of York (Director, Centre for Women's Studies)
Kathleen Lennon	University of Hull, (Professor Emeritus)
Annika Clasen	Heinrich-Heine-University Duesseldorf
Nicole Wegner	University of Auckland (School of Social Sciences)
france rose hartline	日本学術振興会外国人特別研究員

■ジェンダー研究所所属の研究者が研究交流・共同研究をしている海外の研究機関

アジア工科大学院大学（AIT）環境資源開発研究科「ジェンダーと開発」専攻

【担当】日下部京子（AIT 教授）、申琪榮（IGS 教授）、嶽本新奈（IGS 特任講師）

【共同研究・研究交流の概要】

国際教育交流プログラム「AIT ワークショップ」（本学と AIT の博士前期課程の院生が双方の国を訪問し、研究調査ならびに研究交流を行う短期交換研修プログラム）を 2001 年の開始時から毎年、ジェンダー研究所とともに運営しているほか、所属教員らが研究交流を続けている（本報告書 54 頁参照）。

韓国女性政策研究院

【担当】申琪榮（IGS 教授）

【共同研究・研究交流の概要】

2021 年 9 月 1 日～30 日まで Visiting Scholar として招聘を受ける。同院開催の国際フォーラムにキーノートスピーカーとして登壇したほか、研究プロジェクトに関する諮問など、2023 年度も各種の研究プロジェクトに参加した。

韓国ジェンダー政治研究所

【担当】申琪榮（IGS 教授）

【共同研究・研究交流の概要】

当研究所理事を務める。2016 年～2018 年に韓国研究財団から助成金を受託し、共同研究を実施。研究課題は「議会内政治的的代表性の性差に関する公式・非公式的的制度要因分析：韓国・日本・台湾比較分析」。

ソウル大学日本研究所

【担当】申琪榮（IGS 教授）

【共同研究・研究交流の概要】

学術雑誌『日本批評』海外編集委員を務める。

西江大学社会科学研究所

【担当】申琪榮（IGS 教授）

【共同研究・研究交流の概要】

『社会科学研究』編集委員。

釜山大学女性学研究所

【担当】申琪榮（IGS 教授）

【共同研究・研究交流の概要】

『女性学研究』編集委員。

イギリス政治学会学術雑誌 *Politics*

【担当】申琪榮（IGS 教授）

【共同研究・研究交流の概要】

Politics 編集委員。

■ジェンダー研究所所属の研究者が研究交流・共同研究をしている海外の研究機関

華東師範大学

【担当】大橋史恵（IGS 准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

科研費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 B）「人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー」の分担者として現地研究者との協力において調査を実施している。

中国社会科学院

【担当】大橋史恵（IGS 准教授）

【共同研究・研究交流の概要】

科研費国際共同研究加速基金（国際共同研究強化 B）「人民公社期の中国農村における生活秩序の変化とジェンダー」の分担者として現地研究者との協力において調査を実施している。

ノルウェー科学技術大学（NTNU）ジェンダー研究センター

【担当】石井クンツ昌子（お茶の水女子大学理事・副学長／グローバル女性リーダー育成研究機構長）、戸谷陽子（IGS 所長）、小玉亮子（IGS 研究員）、仙波由加里（IGS 研究協力員）、吉原公美（お茶の水女子大学リエゾン・URA センターリサーチ・アドミニストレーター）、佐野潤子（IGS 研究協力員）ほか

【共同研究・研究交流の概要】

ノルウェーリサーチカウンシルの国際共同研究助成金 INTPART による共同プロジェクト（2019 年 4 月～2023 年 9 月）により、共同研究、研究者および大学院生の相互派遣、国際シンポジウム・セミナー・ワークショップ開催などの事業を展開。ノルウェー高等教育・技能局（HK-dir）の UTFORSK 助成金プロジェクト（2021 年 8 月～2025 年 7 月）とバーチャル・エクスチェンジ／COIL パートナーシップ・イニシアチブ（2023 年 3 月～12 月）の活動も並行して実施している（本報告書 51 頁参照）。

【国内外関連研究会】

- 政治代表におけるジェンダーと多様性研究会（Women and Diversity in East asian political Representation (Wonder)）（申）
- 日本政治学会「ジェンダーと政治」研究会（申）
- 国際移動とジェンダー研究会（大橋）
- 経済理論学会分野別分科会・ジェンダー（大橋）
- International Studies Association: Feminist Theory and Gender Studies（FTGS）（本山）
- Gender and Diplomacy (GenDip)（本山）
- 国内の女性学・ジェンダー研究センターとのネットワーク
ジェンダー関連学協会コンソーシアムへの参加 ほか

2) INTPART および UTFORSK プロジェクト

国際比較研究とその最新成果を研究教育に応用する国際共同事業

INTPART プロジェクト

ノルウェーリサーチカウンシルの国際共同研究助成金 International Partnerships for Excellent Education, Research and Innovation (INTPART) による、Norway-Japan: Bridging Research and Education in Gender Equality and Diversity (NJ_BREGED) プロジェクト。ノルウェー科学技術大学 (NTNU) のジェンダー研究センターと IGS とで、2019 年 4 月～2023 年 9 月の期間、教員・研究者・院生の相互派遣および、ノルウェーと日本のジェンダー平等についての比較研究、セミナーやワークショップの開催などを進め、共同研究の成果を書籍として刊行。

2023 年度 INTPART プロジェクトメンバー

《NTNU》グロ・コースニス・クリステンセン (学際的文化研究学部長・教授：プロジェクトマネージャー)、ジェニファー・ブロンラ (准教授：プロジェクト・コーディネーター)、プリシラ・リングローズ (教授)、シリ・エイスレボ・ソレンセン (ジェンダー研究センター長・教授)

《IGS》石井クンツ昌子 (お茶の水女子大学理事・副学長：本学側代表)、戸谷陽子 (IGS 所長／基幹研究院人文科学系教授)、小玉亮子 (IGS 研究員／基幹研究院人間科学系教授)、吉原公美 (リサーチ・アドミニストレーター：事務局)、仙波由加里 (IGS 研究協力員)、佐野潤子 (IGS 研究協力員／東京家政学院大学現代生活学部現代家政学科教授)

UTFORSK プロジェクト

INTPART の実績が評価され採択されたプロジェクト。ノルウェーDIKU: Norwegian Agency for International Cooperation and Quality Enhancement in Higher Education の助成を受け、ジェンダーおよびダイバーシティ研究教育の質を高めるための新しい教育戦略を構築するプロジェクトを展開 (2021 年 8 月～2025 年 7 月)。学生、若手研究者、教員が、パートナー大学での共同セミナーや共同指導を経験するなど、質が高く活力に満ちた、国際的な学びの環境を提供する。研究発表や産学連携への参与など若手研究者への機会提供や、論文の共同執筆など研究者同士の将来的なパートナーシップ発展につながる活動も行う。また、SDGs のジェンダー・ダイバーシティ関連の目標達成に資する成果を目指す。

2023 年度 UTFORSK プロジェクトメンバー

《NTNU》グロ・コースニス・クリステンセン (学際的文化研究学部長・教授：プロジェクトマネージャー)、ジェニファー・ブロンラ (准教授：プロジェクト・コーディネーター)、プリシラ・リングローズ (教授)、シリ・エイスレボ・ソレンセン (ジェンダー研究センター長・教授)

《IGS および本学》小林誠 (基幹研究院人間科学系教授) [本学側代表]、戸谷陽子 (IGS 所長) [本学側プロジェクト・コーディネーター]、石井クンツ昌子 (理事・副学長)、岡村利恵 (グローバルリーダーシップ研究所特任講師)、吉原公美 (リサーチ・アドミニストレーター)

3) 国内外招聘研究者一覧

■ 2023 年度 海外からの招聘研究者

Carol Harrington (ヴィクトリア大学・ニュージーランド)

IGS 国際シンポジウム「グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力」(25 頁参照)

Kathleen Lennon (ハル大学・英)

IGS セミナー「「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化と教育」(34 頁参照)

Rachel Alsop (ヨーク大学・英)

IGS セミナー「「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化と教育」(34 頁参照)

■ 2023 年度 国内招聘研究者

工藤晴子 (神戸大学) IGS 国際シンポジウム「グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力」(25 頁参照)

嶺崎寛子 (成蹊大学) IGS 国際シンポジウム「グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力」(25 頁参照)

青山薫 (神戸大学) IGS 国際シンポジウム「グローバル政治の中のセクシュアリティと暴力」(25 頁参照)

影本剛 (立命館大学ほか) IGS セミナー「トランス排除を乗り越えるみんなのフェミニズム」(28 頁参照)

井谷聡子 (関西学院大学) IGS セミナー「「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化の課題」(31 頁参照)

平山亮 (大阪公立大学) IGS セミナー「「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化の課題」(31 頁参照)

松永典子 (早稲田大学) IGS セミナー「「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化の課題」(31 頁参照)、
「「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化と教育」(34 頁参照)

佐喜真彩 (立教大学ほか) IGS セミナー「「戦後」沖縄フェミニズムにおける「ホーム」概念の変容とその可能性」(32 頁参照)

土井智義 (明治学院大学) IGS セミナー「「戦後」沖縄フェミニズムにおける「ホーム」概念の変容とその可能性」(32 頁参照)

稲原美苗 (神戸大学) IGS セミナー「「トラブルの時代」におけるジェンダーの理論化と教育」(34 頁参照)